

国語科学習指導案

展開学級 3年C組

展開場所 3年C組

授業者 中木 希

1 単元名 思いを重ねる一句集を作ろうー

2 単元の目標

- (1) 互いの考えを生かしながら話し合いをしようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 作品に込められた作者の思いを大切にしながら、互いに納得のいく句集をつくるための話し合いができる。(話すこと・聞くこと (1) エ)
- (3) 建設的な話し合いが行えるように言葉遣いに注意している。(言語についての知識・理解・技能 イ (ア))

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す能力・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
作品に込められた思いを理解し、その思いを大切にしながら話し合いをしようとしている。	作品に込められた作者の思いを理解し、その思いを大切にしながら班員全員が納得のいく句集をつくるために互いの考えを生かしながら話し合いをしている。 (1) エ	建設的な話し合いが行えるように言葉遣いに注意している。 イ (ア)

4 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材について

本単元では、「社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。」という言語活動をもとに、作者の思いを大切にしながら互いに納得のいく句集を作るという、合意形成を意識した言語活動を行う。ディベートやパネルディスカッションのように相手を説得するというよりも、相手の思いや考え、意見をなるべく満たしていけるように話し合いを進めていけるようにしたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元では、合意形成を意識した話し合いができる力をつけさせたい。賛成・反対という主張ではなく、互いの思いを壊さないようにし、さらにジャンルや句の順番を決める際には、互いの考えを認めながらひとつの結論を導き出す話し合いをしなければならない。そのためには、まず思いや考え、意見をよく知ること、そして、意見の裏にある理由を聞き、整理をして話し合いを進めなければならない。これから生徒たちが生きていく上で、互惠関係を築きたいと思う相手と話し合いをする際には、多くの場合合意形成をしていかなければならない。その方法を学び、実際に経験させることで生徒の生きる力になると考える。

(3) 基盤となる言語環境や取り組み

生徒は、1学年ではバズセッションを行い、個々の考えを反映させながら一つの結論を出すということを学んだ。この学習により、互いの考えや主張を公平に受け入れ、認め、結論に向けて話し合うことの難しさを経験した。バズセッションで学んだことは本単元でも生かされると考える。2学年では、プレゼンテーションを行い、どのように表現すれば自分の考えを効果的に伝えられるのかを学んだ。また、日常の授業では、互いの考えや意見を交流する時間をとっている。相手の考えを聞くことによって自分

の考えを深めるために始めた活動だが、どのように話したら自分の考えを的確に伝えられるのかを考えるようになった。そして、自分に考えがあるように相手にも考えがあることを理解することで、話をしっかりと聞こうとする姿勢が見られるようになった。これらは、小さな積み重ねであるが、話し合いという言語活動を行う際には、とても大切な要素であると考えられる。

5 生徒の実態

これまでの学習では、スピーチやプレゼンテーションといった発表型の「話すこと」の活動を多く取り入れてきた。国語の時間だけでなく、毎朝行われる1分間スピーチの積み重ねもあり、自分の考えをもち、人前で話をするということには慣れていくように感じられる。また、発表の仕方を見ていると、黒板を利用したりクイズ形式で話を進めたりと、興味をもって話を聞いてもらうには工夫が必要であることを理解している。しかし、話し合い活動になると、活発に話し合っているものの、誰かの意見に流されてしまったり、その場の雰囲気だけで物事が決まっていたりする。本単元で、互いの考えを大切にしながら同じ方向へ結論づけるような話し合いを経験し、実生活に生かしてほしい。

6 単元指導計画

時	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を理解し、学習の見通しをもつ。 ○今まで作った俳句を読み返し、自分でジャンルを考えてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで作った俳句を読み返し、どのような思いでその俳句を作ったのか思い出させる。 ◇学習の見通しをもち、今までの作品を読みながらどのようなジャンルになるか考えている。(観察・ワークシート)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○「ともしび」の俳句を使い、実際にジャンル分けや順番決めを経験する。(学級全体) (句集作りの話し合いと違うところ) ・発表してからジャンルを決めるため、全員の考えが反映されない。(人数の違いもある。) →全員の考えを知り、互いに折り合いをつける。 ・作者が目の前にいるわけではないので、想像で作品の背景を考えることができる。 →作者の思いを大切にしながら納得のいく話し合いにする。 ○班ごとに俳句を読み合い、どのような思いでその俳句が作られたのかを互いに知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体でジャンル決め等を行い、本単元で行う話し合いではどのようなことが大切になるのかを考える。 ・作品には必ず作者の思いがあることを伝え、その思いを大切にするように考えさせる。 〈思いとは〉 <ul style="list-style-type: none"> ・どのような情景(場面)でつくられたのか。 ・どのようなことに心を動かされたのか。 ・どのような心情を表したかったのか。 など ◇作品に込められた思いを理解しようとしている。(観察・ワークシート)
3 (本時) 4	<ul style="list-style-type: none"> ○班で話し合い、俳句をジャンル分けする。(全ての作品を句集に入れる。) ○班で句集を編集する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンルはどの順番にするか。 ・ジャンル内は作品をどのような順にするか。 →なぜそのような順番にしたのかも考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に込められた作者の思いを大切にしながら分けることを伝える。 ・なぜそのような順番になるのかも考えさせる。 ◇作者の思いを大切にしながら全員で方向性を決めている。(観察・ワークシート)
5	<ul style="list-style-type: none"> ○班ごとに仕上がった句集を読み合う。 ○学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の句集を読み、自分の班との違いや共通点を見つけるように考えさせる。 ・学習を振り返り、学んだことをまとめる。 ◇学習を振り返り、学んだことをまとめている。(ワークシート)

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・互いの考えを生かしながら話し合いをしようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- ・話し合いがひとつの方向に向かうように、互いの考えを生かして話し合いを行う。

(話すこと・聞くこと)

(2) 本時の展開

時 配	学習活動	指導や支援の手立て ◇評価
導入 5分	○本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・作品には思いが込められていること、その思いを大切にすることを確認する。 ・自分の主張だけでなく、皆が納得いくような方向に話し合いをすることを確認する。
	作者の思いを大切にしながらみんなが納得のいく句集をつくろう。	
展開① 15分	<ul style="list-style-type: none"> ○俳句を読み直し、どのようなジャンルにするか自分で考える。 ○班ごとに話し合いを行い、ジャンル分けや句の順番を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なんとなく」ではなく、根拠をもって決めていくことを確認する。 ・いろいろな視点からジャンルを考えるように助言する。(例：部活？友情？青春？絆？)
展開② 7分	○話し合いを中断し、今までの話し合いの振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・誰かの意見に流されて話し合いが進んでいないか、互いに折り合いをつけながら話し合いが行われているかを確認する。 ◇作者の思いを大切にしながら全員で方向性を決めている。(話す・聞く：観察・ワークシート)
展開③ 18分	○振り返りをもとに話し合いを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いが終わらなければ結論を出さずに終わっても良いことを伝える。 ◇話し合いがひとつの方向に向かうように、互いの考えを生かして話し合いを行っている。(話す・聞く：観察、ワークシート)
まとめ 5分	○本時のまとめと次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時を振り返り、目標に向かってどのように取り組めたかをワークシートに記入させる。 ◇互いの考えを生かして話し合いをしようとしていたか。(関心・意欲・態度：ワークシート) ・次時の確認をする。